

YMCA News

11



『僕の4年間』



僕が小学3年生の春に、ぶらいむ・たいむ盛南校ができました。同じ学校の人も少ない中、人見知りの僕はとても緊張したことを鮮明に覚えています。そんな中、僕はリーダーという存在がとても好印象でした。優しく迎え入れてくれたリーダーや、一発ギャグで笑わせてくれたリーダー、それと一緒に仲良くしてくれた同学年の人たちとも、一日で友達になりました。その日から僕は、リーダーや友達に会って遊ぶのがとても楽しみで、ほぼ毎日盛南校に通いました。

その中でも、盛南校に入って1年が経った小学4年生の頃が特に記憶に残っています。4年生になってすぐ、盛南校にも可愛い1年生がランドセルを背負って入学してきました。その時は、盛南校にいた友達も多くはなかったのですがとても嬉しかったです。僕と同学年の友達と一緒に面倒をみたり、サッカースクールに行ったり、時にはみんなで叱られて涙を流したこともありました。

他にも、嬉しさや悲しみを分かち合ってきた仲間はたくさんいます。6年生になって後半を迎えても、僕はYMCAを離れませんでした。理由は簡単です。楽しかったから。

今でもYMCAでの思い出を振り返ると、懐かしい記憶が蘇ってきます。そんな記憶の中にある可愛い1年生も、今ではあの頃の僕と同じ4年生で、1年生の面倒をみえています。たまたま盛南校の前を通りかかると、元気で活気のある声が聞こえてきます。僕がYMCAで過ごした4年間は絶対に色あせません。今まで僕を育ててくれたリーダーの皆さん、そして、いつでもそばにいてくれた仲間たち、本当に有難うございました。僕がまた顔を出した時は、一緒に思い出話をしたいです。

ぶらいむ・たいむ盛南校
 卒業生 刈屋陽人さん



盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

～サッカー大会報告～ 「ファミリーサッカーフェスティバル」・「チャンピオンズカップ」



10月24日(日)に、ファミリーサッカーフェスティバルとチャンピオンズカップが、岩手県立大学のグラウンドで開催されました。この日は午前中にファミリーサッカー、午後にはチャンピオンズカップを行うという、今までにない形での開催でした。

ファミリーサッカーフェスティバルでは、1年生から4年生を対象に子ども同士だけではなく、保護者やリーダーたちと一緒に楽しくサッカーを行いました。最初は遠慮してボールに触れていなかった子が、試合を通して積極的にボールに向かう場面や、チームで「ドンマイ」や「ナイスプレー」などの声を、子どもたち自身が発している場面が何度もあり、1人1人が何か成果を得られた機会だと感じました。

一方、チャンピオンズカップは5年生と6年生を対象に優勝を目指すという大会です。ファミリーサッカーフェスティバルとは違う緊張感があり、スクール対抗でチームを組み、試合を行うため、負けたら本気で悔しがることもあるし、勝ったら全力で喜び合うことがあります。なので、勝ちにこだわる場面が見られました。

しかし、それ以上に相手チームをリスペクトしながら、1つ1つのプレーに、情熱や感謝の気持ちが圧倒的に伝わってきました。

2つの大会を1日で開催しましたが、共通したことがあります。それは、全試合終了後の閉会式のとき、リーダーが楽しかったかどうかを聞くと、子どもたちが即答で「楽しかったー!」と手を挙げてくれたことです。この光景を見て、本当に実施できて良かったと思えました。

菅野真矢(かきびリーダー)



↑ファミリーサッカーフェスティバル



↑チャンピオンズカップ

全日本U-12選手権岩手県大会



10月3日(日) 花巻市スポーツキャンプ村
2回戦 盛岡YMCA 0-2 アントス

私たち盛岡YMCAベストキッズは、「全日本U-12選手権大会岩手県大会」に今年度も参加しました。6年生にとっては最後の大舞台であり、小学生年代サッカーの集大成でもあることから、メンバー全員が気合を入れて臨むはずでした。しかし、8月17日に岩手県独自の緊急事態宣言が発令され、ベストキッズも練習やトレーニングマッチの一切ができなくなってしまい、子どもたちは今まで積み重ねてきたものが失われるかもという、不安に駆られてしまうような時期を過ごしていました。しかし、9月末まで続いた活動自粛も明け、本番まで2回の全体練習を行った際、子どもたちは緊急事態宣言前と変わらない、元気な笑顔と掛け声でサッカーを楽しんでいました。きっと、思いっきりサッカーができる喜びを自然に体現していたのでしょう。

試合当日、子どもたちの気持ちは一つになり、「ベストキッズ過去最強・最高のチームにする」というこのチームの目標に向かい高橋廉翔キャプテンを中心に落ち着いたスタートから、チャンスと見るや相手の裏を抜け

るなど、ギアを一気に変えたり、シュートが外れても全員で声を掛け合ったりと活動を自粛していた事など微塵も思わせない戦いぶりです。

しかし相手チームがチャンスを正確にものにし、2点を奪われ試合終了のホイッスルが鳴りました。トーナメント形式のため、この時点で今大会は終わってしまいます。子どもたちは俯き涙を流しながらコートをあとにしました。しかし、涙を流しているのは一生懸命だった証拠です。きっとこの日流した涙は忘れることなくこれからの子どもたちの成長の糧になることと思います。全員でコロナという現実を受け入れながらも一つの目標に向かうという経験ができた子どもたちの将来を楽しみにこれからも一緒にサッカーを楽しんでいこうと感じました。

ベストキッズディレクター 東森 聡



10月サンデースクール ～YMCA運動会～



10月17日(日)、仁王地区活動センターにて子ども11名、リーダー9名で「YMCA運動会」を開催することができました。6月以来のサンデースクールということもあり、今回実施できたことを本当に嬉しく思います。今回は「運動能力や勝ち負け関係無く、一体感を感じて楽しむ」といったことをテーマに活動を行いました。当日は、「スローイングビンゴ」、「動く玉入れ」、「借り物競走」、「障害物競走」という、ニュースポーツも取り入れたYMCAらしい運動会にすることができたと思います。普段あまり見ることのない競技の道具を見た子どもたちは、競技を始める前からとても気分が上がっている様子で、実際に種目が始まるとその日初めて会った子もいる中、グループの子と順番を決め、協力しながら楽しんでいる様子でした。

第一種目のスローイングビンゴはニュースポーツの一つで、運動能力や年齢関係無く楽しめる競技です。平面の大きなマス目の書かれた的にめがけ、サンドレッドと呼ばれる物を投げ、ビンゴを狙うというゲームだったのですが、グループ毎に得点の高いマスを集中的に狙うのか、ビンゴを狙っていくのか作戦を考えながら遊んでいる様子は、今日決まったグ



ループとは思えない一体感を傍から見て感じました。

久々のサンデースクールということで、私自ら子どもたちと思いっきり楽しめるか不安なところもあったのですが、そんな不安を掻き消してくれるような元気で一生懸命な子どもたちと今回関わることができて本当に楽しかったです。

小河原悠加(ぶんちんリーダー)

～サッカースクール～



暑い暑い夏が過ぎていったと思えば、早くも寒い寒い冬がやってきます。そんな中、子どもたちは寒さをものともせず、元気に体を動かしています。

新型コロナウイルスの感染拡大も落ち着き、2か月ぶりにサッカースクールを再開することができました。久しぶりに会った子どもたちは、活動ができなかった間に溜めていたパワーを使い切るような勢いで思いっきり走り、思いっきり声を出し、思いっきり楽しんでいます。サッカーが上手になりたい子、体を動かすことが好きな子、みんなと一緒に遊びたい子、各々がやりたいことを沢山できる場所がサッカースクールです。これからも子どもたちと一緒に、みんながやりたいことを沢山していきたいと思っています。

私たちリーダーは、子どもたちの成長を近くでみれるサッカースクールが大好きです。週に一回しか会えないからこそ、その成長の速さに驚き、とても嬉しくなります。子どもたちは一人一人違う目標に向かい、一生懸命挑戦し成長し続けています。私はその挑戦に少しでも関わってあげたいなって思っています。

これからさらに寒さが厳しくなっていきます。太陽が沈むのも早くなり、外で遊べる時間も短くなっていきます。でも、だからこそ、短い分、より濃厚なサッカースクールの時間に出来ると思っています。寒さに負けず、何事にも全力で、みんなで楽しいサッカースクールにしていきたいと思っています。

齊藤明友香(にらリーダー)

～水泳教室～

新型コロナウイルスによる岩手緊急事態宣言が9月16日に解除され、10月1日からは盛岡YMCAの通常活動が再開されました。私がYMCAの子どもたちと会うのは、8月4日から7日まであった島のわくわくキャンプ以来で、活動の再開が決まった時は、とても嬉しかったのを覚えています。

久しぶりの水泳教室。待ちに待ったYMCAの水泳教室で、体操の時点で子どもたちもリーダーたちもテンションが上がりまくりでした。レッスン中はそれぞれのグループで子どもたちの楽しそうな笑い声が響き渡り、最後まで笑顔が絶えませんでした。活動が終わった後のリーダー同士の会話も私の楽しみの1つでした。緊急事態宣言中は会うことが出来なかった他大学のリーダーたちとの交流も、涙が出るくらい嬉しかったです。緊急事態宣言中は何をしていたか、久しぶりの活動はどうだったかなどたくさんのお話をすることができました。

子どもたちの笑顔、聞こえてくる笑い声、みんなとの会話、緊急事態宣言前までは当たり前だと思っていたことが、実は当たり前のことではなくとても貴重な経験であり幸せなことだったのだと気づきました。

緊急事態宣言はたしかに私たちの活動を制限しましたが、活動の楽しさや大切さを改めて気づかせてくれる良い機会でした。これからの水泳では感染対策を行うことはもちろん、一回一回の活動を大切にしながら、子どもたちに負けないくらい水泳を楽しみたいと思います。YMCA大好きです。

菅原幸之(はなこリーダー)



～体育教室～

2ヶ月間の長い間お休みしていた体育教室も10月から再開となり、やっと子ども達に会えるとワクワクしながら活動に参加しました。久しぶりに会う子ども達は2ヶ月前よりも大きくなっていて、「あれ?こんなに大きかったかな?」と子ども達の成長に嬉しく思うと同時に、2ヶ月間での子ども達の成長に少し驚きました。

体育教室は恒例の、レッスン前に行われる子ども達による劇から始まります。子ども達が季節の行事や話題のアニメ、昔話などについて劇をしてくれます。その後は倒立、3点倒立、壁倒立、ブリッジの4点セットを練習しています。練習の成果もあって、1年前とは比べものにならないくらい上手になっています。中にはリーダーの補助がなくてもできるようになった子や、できる秒数が伸びている子もいて、子ども達の成長をとても感じます。今年度はマット運動を中心にレッスンをしています。以前は苦戦していたクロスステップや前転、後転もだんだん上手になっています。

その他にも体育教室では跳び箱や縄跳び、鉄棒なども練習しています。

子ども達は苦手なこともありませんが、それでも諦めずにチャレンジを続けることで徐々に出来ることが増えています。楽しむ時は思いっきり楽しんで、レッスン時は本気で練習する。そんな体育教室の子ども達と、これからも一緒に活動していきたいと改めて思いましたし、一緒に私もリーダーとして成長していきたいと思っています。



十文字堅斗(おびリーダー)

「なんにもない」

10月の初め、枝豆の収穫のお手伝いに行ってきた。もりおかワイズメンズクラブの加藤さんの畑で、有機栽培された秘伝豆という品種だ。一緒に参加してくれたのは9名の若者たち。普段はYMCAの様々な活動でボランティアリーダーとして活躍している。

ブルーシートを敷いて収穫された枝豆を商品になるもの、そうでないものに仕分けていく。広い空の下、おしゃべりをしながらの作業はなんとも楽しいものだ。その内、一人のリーダーがこんなことを語りだした。「無とは何だろう？宇宙は無の状態から突如爆発して誕生したと言われていたけど、何も無いところから誕生するはずがないじゃないか!」。それから話題は、人間の存在や認識など、やたら哲学的な話になっていった。それも彼らの日常生活の中で湧いて出た素朴な疑問が多く、とても興味深かった。世間では、今の若者たちはあまり考えないと言われていたが、ところがどっこい、普段口には出さないだけで実はものすごく考えているんだと思った。

ということで、今回ご紹介する曲は、「やつらの足音のパラード」。70年代中頃、「はじめ人間ギャートルズ」というアニメ番組のエンディングで流れていた曲だ。ネットで検索可能なので、是非ご視聴あれ。

なんにもない なんにもない
まったく なんにもない
生れた 生まれた なにが生まれた
星がひとつ 暗い宇宙に 生まれた
星には夜があり そして朝が訪れた
なんにもない 大地に
ただ風が吹いてた

「初めに神は天と地を創造された。地は混沌として、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた。『光あれ。』すると光があった。神は光を見て良しとされた。神は光と闇を分け、光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。」

(旧約聖書創世記1章1～5節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

(2021年10月25日現在) 敬称略

●維持会員

山本常雄、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見見弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤眞一郎、伊藤みどり、及川茂夫、accommon、森山日菜乃、森山幹大、伊藤眞太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、浅沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理恵子、川坂保宏、魚住恵、魚住英昭、高橋友恵、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、濱塚有史、水野暢夫、角谷善治、尾形裕一郎、菅原菜理奈、小川嘉文、小川明佑、東森聡、茶畑大地、

最新情報はこちらでチェックできます！「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ  : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook  : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>



植草学園大学 発達教育学部 発達支援教育学科教授
盛岡YMCA常議員 名古屋恒彦

11月以降も通常通りプログラム活動を行います！



表紙の写真から



今回、リーダーたちが収穫したのは、「秘伝豆」。岩手県の気候風土に合わせて開発された枝豆です。豆の味が濃く、かむほどに甘味が増してくるのが、特徴です。盛岡YMCAが運営する放課後児童クラブ「ぶらいむ・たいむ前潟校」の畑でも栽培しています。